

学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）

日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会

2024.6.6

調査の概要

目的：2023年7月に実施した自治体教育委員会向けの調査とは別に、学校図書館職員個人についての情報収集及び考え等を把握する。

調査対象：正規職員を含む学校図書館職員

調査時期：2023年11月下旬～2024年1月（2024年1月31日〆切）

調査方法：Web調査

回答数：893人

（数値はすべて回答者の人数、人数の多い数値のみ比率を入れている。）

1 属性

（1）性別 男 31 女 862（96.5%）

（2）年齢 20～29歳 42 30～39歳 124 40～49歳 280（31.4%）
50～59歳 334（37.4%） 60～69歳 109 70歳～ 4

（3）資格の有無（複数回答可）

司書 737（82.5%） 教員免許 269（30.1%） 司書教諭 224（25.1%）
学校司書モデルカリキュラム 27 司書補 19 なし 65

（4）最終学歴

大学院 36 大学 609（68.2%） 短期大学・高等専門学校 201（22.5%）
専門学校 20 高等学校 24 その他 3（大学院中退2、中学校1）

（5）勤務する学校の別

国立学校 4 都道府県立学校 188（21.1%） 市町村立学校 632（70.8%）
私立学校 69

（6）勤務する学校の種類

小学校 461（51.6%） 中学校 173（19.4%） 義務教育学校 13
高等学校 214（24.0%） 中等教育学校 22 特別支援学校 10

（7）勤務の状況

1校専任 667（74.7%） 2校兼務 96 3校以上兼務 88
1校に複数名の配置 32 その他 10

（8）勤務の日数・時間（現在集計中）

（9）サービス残業・持ち帰り仕事（多い順）

よくある 303（33.9%） たまにある 360（40.3%） ない 230

2 労働条件

（1）雇用形態

- 1) 自治体・国立学校・私立学校による直接雇用の場合 860 (96.3%)
 正規職員 128 (14.3%) 任期付職員 36
 フルタイム会計年度任用職員 98 (11.0%)
 パートタイム会計年度任用職員 534 (59.8%) 再任用・再雇用職員 12
 有償ボランティア 13 会計年度任用職員以外の非正規雇用職員 38
 未記入 1
- 2) 外部委託・派遣等の場合 33
 外部委託 25 派遣 4
 公共図書館が指定管理で学校図書館も対象になっている 4
- (2) 雇用契約(任用)期間
 1年未満 50 1年 568 (63.6%) 2年以上 98
 期限なし(無期雇用) 40 期限なし(定年まで) 137
- (3) 雇い止めの有無
 あり 190 (21.3%) なし 451 (50.5%) 不明 252
- (4) 現在の学校図書館での勤務年数
 1年未満 200 (22.4%) 3年未満 277 (31.0%) 5年未満 159
 5年以上10年未満 173 10年以上 84
- (5) 学校図書館での通算勤務年数
 1年未満 47 3年未満 107 5年未満 101
 5年以上10年未満 288 (32.3%) 10年以上20年未満 243 (27.2%)
 20年以上 107
- (6) 給与・報酬(記載された金額は現在集計中)
 時給 405 (45.4%) 日給 53 月給 435 (48.7%)
- (7) 昇給の有無 あり 315 (35.3%) なし 509 (57.0%) その他 69
- (8) ボーナス・一時金(期末・勤勉手当)の有無
 あり 693 (77.6%) なし 200
- (9) 交通費(通勤手当)の有無
 あり 851 (95.3%) なし 42
- (10) 超過勤務手当(残業代)の有無
 あり 255 なし 638 (71.4%)
- (11) 上記(8)(9)(10)以外の手当の有無(記載された手当は現在集計中)
 あり 153 なし 741 (83.0%)
- (12) 退職金の有無 あり 184 なし 709 (79.4%)
- (13) 現在の賃金(給与・手当等)の満足度
 満足 93 やや満足 167 やや不満足 290 (32.5%) 不満足 343 (38.4%)
- (14) 改善または追加してほしい賃金制度(複数回答可)(その他欄に記載された制度は現在集計中)
 給与の増額 631 (70.7%) 昇給の実施 375 (42.0%) ボーナスの支給 167
 退職金の支給 338 (37.8%) 交通費の全額支給 98

超過勤務手当の支給 350 (39.2%) なし 72

(15) 家計の中での賃金の位置づけ

主な収入源 280 (31.4%) 主な収入源が他にある (ダブルワーク等) 40

自分以外の家族の収入減が主な収入源である 573 (64.2%)

(16) 職場で加入している社会保険 (複数回答可) (その他欄に記載された社会保険は現在集計中)

厚生・共済年金 593 (66.4%) 健康保険 536 (60.0%)

雇用保険 521 (58.3%) 介護保険 293 (32.8%)

なし 168

(17) 取得可能な休暇 (複数回答可)

1) 取得可能で有給のもの (その他欄に記載された休暇は現在集計中)

年次有給休暇 861 (96.4%) 夏季休暇 682 (76.4%) 慶弔休暇 574 (64.3%)

病気休暇 307 (34.4%) 産前産後休暇 310 (34.7%) 育児時間 127

育児休暇 211 介護休暇 232 子の看護休暇 206 なし 22

2) 取得可能で無給のもの (その他欄に記載された休暇は現在集計中)

年次有給休暇 13 夏季休暇 82 慶弔休暇 128 病気休暇 326 (36.5%)

産前産後休暇 212 育児時間 273 (30.6%) 育児休暇 276 (30.9%)

介護休暇 308 (34.5%) 子の看護休暇 281 (31.5%) なし 300

(18) 現在の休暇の満足度 (その他欄に記載された休暇は現在集計中)

満足 229 (25.6%) やや満足 299 (33.5%) やや不満 230 不満 110

(19) 改善または追加してほしい休暇制度 (複数回答可) (その他欄に記載された休暇は現在集計中)

年次有給休暇 115 夏季休暇 117 慶弔休暇 101 病気休暇 281 (31.5%)

産前産後休暇 96 育児時間 104 育児休暇 141 介護休暇 278 (31.1%)

子の看護休暇 200 (22.4%) なし 264

(20) 改善を望む労働条件を3つまで選択 (その他欄に記載された条件は現在集計中)

賃金制度 (給与、手当) 626 (70.1%) 勤務時間の増加 406 (45.5%)

雇用期間の延長、雇用止めの廃止 388 (43.4%)

複数校の兼務でなく1校専任で働く 195 休暇制度 161

社会保険 108 なし 57

3 校内の処遇、担当する職務

(1) 校内の処遇 (複数回答可)

教職員名簿の掲載 689 (77.2%) 校内資料の配布 678 (75.9%)

職員室の机 (共用も含む) 563 (63.0%) 職員用 PC の配布 458 (51.4%)

朝会・朝の打ち合わせの参加 331 (37.1%) 職員会議の参加 314 (35.2%)

タブレット端末の配布 300 (33.6%) 校内研究・研修の参加 285 (32.0%)

なし 46

(2) 「間接的支援」に関する職務 (複数回答可)

図書を受け入れ (装備も含む) 864 (96.8%) 図書の廃棄・除籍 860 (96.3%)

資料の展示・別置	856 (95.9%)	図書資料の選定	849 (95.1%)
レイアウトの改善等	837 (93.7%)	利用案内・書架案内等の作成	818 (91.6%)
蔵書点検	812 (90.9%)	図書館便りの作成	738 (82.6%)
統計の作成	651 (72.9%)	他図書館との相互貸借	649 (72.7%)
情報機器の整備・管理	525 (58.8%)	学校図書館に関する計画の作成	462 (51.7%)
選定基準の作成	406 (45.5%)	学校図書館に関する予算案の作成等	386 (43.2%)
図書館ボランティアの対応	359 (40.2%)	なし	2

(3) 「直接的支援」に関する職務（複数回答可）

図書の貸出・返却	868 (97.2%)		
レファレンス・サービス（調べもの相談）	863 (96.6%)		
読書のための資料相談・案内・紹介	832 (93.2%)		
オリエンテーション・ガイダンスの実施	832 (93.2%)		
読書活動の企画・実施	742 (83.1%)	情報検索等のアドバイス	679 (76.0%)
予約サービスの実施	641 (71.8%)	なし	5

(4) 「教育指導への支援」に関する職務（複数回答可）

児童生徒の委員会活動等への支援	779 (87.2%)
授業資料の準備・ブックリストの作成	695 (77.8%)
学校行事に関する資料の展示・提供	647 (72.6%)
学校図書館活用に関する教員への情報提供	641 (71.8%)
授業利用時の図書館及び資料活用のガイダンス	603 (67.5%)
授業のための教員との打ち合わせ	592 (66.3%)
調べ学習等の児童生徒への支援（T・Tの一員として）	546 (61.1%)
授業利用時の読み聞かせ・ブックトーク等	531 (59.5%)
「図書の時間」への関わり（小学校のみ）	434 (48.6%)
授業のための調べ方をまとめたプリント（パスファインダー等）の作成	338 (37.8%)
なし	15

4 研修

(1) 新採用者向け研修

ある	職務としての研修	479 (53.6%)	自主的に参加する研修	73
ない		341 (38.2%)		

(2) 過去1年間に職務としての研修に参加したか（参加回数は現在集計中）

参加した	738 (82.6%)	参加しなかった	155
------	-------------	---------	-----

(3) 過去1年間に自主的に参加した研修はあったか（参加回数は現在集計中）

あった	546 (61.1%)	なかった	347
-----	-------------	------	-----

(4) 研修の参加以外に自主的に学習や活動をしていることはあるか

ある 721 (80.7%)

具体的な活動内容（複数回答可）

インターネット・SNSでの情報活用 568 (63.6%)
図書館関係誌や図書の購読 470 (52.6%)
勉強会等への参加 385 (43.1%) 図書館関係団体での活動 198

ない 172

(5) 仕事をしていく上で研修等を受講する機会は必要と思うか

ある 857 (96.0%) ない 36

(6) 研修等を受講する場合にどのような問題があるか(複数回答可)(その他欄の記載は現在集計中)

時間がない 539 (60.4%) 費用がかかる 472 (52.9%) なし 130

5 その他

(1) 昇進・昇格の機会の有無

ある 139 ない 654 (73.2%) 不明 90

(2) 非正規職員が正規職員に転換する機会の有無

ある 64 ない 739 (82.8%) 不明 90

(3) 今後も学校図書館職員として働きたいと思うか

はい 783 (87.8%) いいえ 41

(4) 「学校図書館職員として長く働く」ことによってどうなると思うか

1) 仕事の幅が広がる

そう思う 486 (54.4%) やや思う 257 (28.8%)

やや思わない 101 思わない 49

2) 能力が高まる

そう思う 568 (63.6%) やや思う 272 (30.5%)

やや思わない 33 思わない 20

(5) 学校図書館で働く中で、思うこと(自由記述 640)

自由記述意見の扱いについて

- ・意見をカテゴリーに分けることを試みたが、以下の記述例1～3のように、1つの意見に、複数のカテゴリーを含む意見がある。本報告では、カテゴリーの①から⑪までを示す。カテゴリーの後の数値は実数ではなく、実際にはもっと大きな数字になる。
- ・長文の意見(3)があった。この場合も、便宜上、1つのカテゴリーに分けた。

記述例1 (公立・小・1校専任)

私は自治体公務員出身だが、教育委員会の経験がなかったので、学校はまるで異世界のような感じだった。自治体初の学校司書だったが、マニュアルもなく、教育委員会からも学校からも放置状態。最初の1年は言葉を交わす教員も少なく、職員室は針のむしろの状態、とても辛い思いをした。6年目になり、新教育長に日頃の訴えが通り、ようやく学校図書館、学校司書のマニュアルが作成されようとしている。勤務条件や学校での待遇は、他の方の悲惨なつづやきを見る度に恵まれている方かとは思いますが、専門職の会計年度職員は、雇用期間を3年以上にして欲しい。来年

度は居ないかとも思いながら、毎年来年度の準備をするのは虚しすぎる。

→ ①にしたが、⑤の内容もある

記述例2 (公立・小学校・1校専任)

とにかく給料が低い。生活ができない。学校内において司書の業務への理解がない。(教員は司書がどういうものか知らない)。公共図書館児童担当と小学校司書の両方を経験したが、公共図書館に比べ、小学校図書室は利用冊数と利用頻度が比べ物にならない程多い。常に児童に寄り添っているのは学校図書室である。それであるにも関わらず、公共図書館に比べ図書購入予算は少なく、古く汚い図書をいつまでも使い続ける必要がある。児童が新しい情報に触れる情報センターとしての役割を果たせずにいる。能力のある司書がいても、図書室を作る予算もなく、勤務時間も給料もパートアルバイトの扱いである。

→ ③にしたが、②の内容もある

記述例3 (公立・小学校・1校専任)

1人職場のことが多いので、ひとりよがりになりがちの上監査もないので、学校格差が生まれてしまう。また管理職の考え一つで有効活用されたり無視されたりするのも学校格差となっている。図書館の存在もだが、学校司書個人に対しても同じ。多くの学校で学校図書館と司書は軽視されている。(授業に遅れることが当たり前で来ない時も連絡なし、担任不在で子どもだけ送り込む、逆に確認なしで急に来館するなど、他の専科では決してしないことが罷り通る)

→ ②にしたが、⑧も考えられる

① 待遇改善、安定した雇用、正規雇用の実現など 73

記述例4 (公立・特別支援・1校専任)

まだまだ改善が必要。完全にオーバーワーク。非正規で時間も短い、教員と同じ時間いて当たり前と思われている。そして管理職も仕方ないと思っている。それでいて立場は低く、雇用環境も安定しない。雇い止めに怯えながら新年度を待つことになる。どうにか雇用だけは安定させてほしい。会計年度になっていいことがなにもない。ボーナスは出るが、月給は減っている。意味がない。

記述例5 (公立・中学校・1校専任)

会計任用職員に頼りきりになるのではなく、正規職員として採用し、安定した立場で働きたいです。

記述例6 (公立・小中学校・4校兼務)

複数校勤務では、本当に時間が足りない。毎日勤務なら一週間かからない事も週1では一ヶ月以上かかる。週1だから働けるといふ人もいるとは思いますが、1校専任週5フルタイム(朝の読み聞かせから6限終了まで)で仕事ができれば、と思う。

② 学校図書館と学校司書の仕事が理解されていない(管理職、教員、自治体ほか) 64

記述例7 (公立・中学校・1校専任)

行政(人事)が、図書館司書の仕事の重要性を理解していないため、司書の雇用面など軽視されている。学校現場の正職員を減らして、全員会計年度職員にする流れがある。図書館教育は、学校全体の共通理解で、全職員で行うべきものであるのに、教員の関心の有無に任されている所が

問題。図書館教育の意識が高い司書教諭（図書館主任）の配置と、図書館業務を行うための時間確保が必要。（以下省略）

記述例 8 （公立・高校・1校専任）

図書館担当の先生から、司書なんか TSUTAYA の書店員だと皆思っていると言われたことがある。司書のレベル事態が全体的に上がっていかないといつまでも認めて貰えない。

記述例 9 （公立・中学校・司書不在校で司書業務の一部を担当）

読書の推進や本で調べることの大切さを生徒に伝えるには、教員への教育が不可欠であると感じます。どんなに生徒が本に興味を持って、担任から「受験生だからほどほどにしろ」という指導をされたり、調べ学習の際に図書館を使おうという選択肢すらない教員がほとんどなので、専任学校司書設置を上げるとともに、教員への周知や研修も充実させなければ、本来の学校図書館の機能を果たすことはできません。

記述例 10 （公立・小学校・2校兼務）

自治体の学校図書館・学校司書に対する認識が低すぎる。図書ボランティアがいれば良いと思っているようだ。週に一日勤務で一体何ができるのか。悲しくなります。

③ 待遇が悪い

49

記述例 11 （公立・小学校・1校専任）

学校司書はとても弱い立場である。今年はたまたま一校専任で働きやすい学校だが、去年までは2校兼任で机もない日があった。モラハラやパワハラまがいのこともあったが、誰にも言えなかった。市内の小学校で一校専任は4校のみ。次に異動するときは恐らく2校専任になる。今から憂鬱だ。そのタイミングで転職するかもしれない。

記述例 12 （公立・小学校・1校専任）

交通費を実費支給してくれないことにずっともやもやしている。くらしてゆけないぐらいの低賃金も本当につらい。学校司書は専門職だと自負しているが、意に反して対応は限りなく軽々しく、捨て駒扱いでかなしい。毎日、辞めたい、辞めたい、と思いながら登校している。パワハラもある。底辺のかなしさは体験しているひとにしかわからないと思う。20年近く働いているがよくなったことはひとつもない。非正規雇用や、会計年度任用職員なんて制度をつくった輩を一生恨んでも恨みきれない。

④ 楽しい、続けたい、頑張っていきたい

36

記述例 13 （公立・小学校・1校専任）

子供たちとの触れ合いは、やる気に繋がり、何者にもかえがたい幸せと感じる。給与水準が伴えば長く続けたい仕事だと思う。

記述例 14 （公立・小学校・1校専任）

子どもたちがうれしそうな顔で借りた本を持ち帰る姿を見ると、こちらもうれしくなります。本を読んで知る世界、読んで調べて得る知識、読むことの楽しさを伝えていけたらと思っています。

記述例 15 （公立・小学校・2校兼務）

子ども達の読書や学びをサポートすることが主な仕事ではあるが、担任以外だからこそ知り得たり、気づいたりすることもある。そういったことを先生方と共有し、よりよい指導につなげられ

たり、成長を見られることは嬉しい。

⑤ 疎外感、孤独感、お客様感、相談相手がいない、ほか 34

記述例 16 (公立・中学校・1校専任)

とにかく孤独。先生との連携というが、努力するのは司書ばかり。教員以外は基本信用されていない学校文化の中ではとても辛い立場である。仕事量や責任の大きさを考えると割に合わない。

記述例 17 (公立・中学校・1校専任)

非正規の雇用だと、学校ではお客さん扱いが多く、情報も入りにくいし、意見が言えない。ギガスクールが始まってしばらくになるが、タブレットもアカウントももらえないようでは、図書館は趣味の本を読む場所になってしまう。図書館の本を使ってもらうために色々努力しているが、朝読書もなくなり、できることが限られると思ってしまう。

⑥ 限界を感じる、やる気を失ったなど 18

記述例 18 (公立・小学校・4校兼務)

疲れ果てました。仕事内容は良いと思いますが、これだけやってきてもひどい待遇のところばかりで、失望、絶望感でいっぱいです。自治体格差、学校間格差もはなはだしい。夢も希望もすっかり失いました。良い仕事なのに非常に残念です。仕事としての待遇もですが、図書予算10万とか、児童の読書・学習環境もひどいので、ますますモチベーション低下も。

記述例 19 (公立・小学校・3校兼務)

初めの数年は向上心を持って働いていたが、学校司書の限界、必要性の低さを感じることも多く、そのうちワークライフバランスをとるために、手を抜きがちになっている。この程度でも大丈夫という、加減を覚えてきてしまっている。頑張っても、おざなりにやっている学校司書と給料が同じというのも、原因にあるかもしれない。

⑦ 同業の司書に対して 11

記述例 20 (公立・中学校・1校専任)

すごく好きな仕事を続けられていることに感謝しているが、たまたま自分の条件が続けられる状態(既婚、配偶者の収入がある)だから。自立した生活を送れる雇用条件ではない状態。日本全体でこのような状態ということは国も社会全体も「その程度の仕事だ」と認識しているように感じて辛い。一方で、「腰掛け程度で働きたい」と思っている同業者が多いのも事実。

記述例 21 (公立・高校・1校専任)

非正規待遇、パートタイム会計年度任用職員の立場で、専門職として扱われることはないため、学校組織内で司書としての提言が個人的な意見とみなされてしまう。雇用条件内で無理せず働きたい人からやりたいことがハイレベルになる人に対してやりすぎだと軋轢が生まれてしまう。

⑧ 学校、自治体による格差 11

⑨ 学校司書を教職員の一人に 11

記述例 22 (公立・小学校・4校兼務)

もっと学校職員の一人として、認識してもらいたいです。複数校やっていると、どの学校でもお客さんのようになってしまい、うまく授業に関わっていくことができません。

⑩ 教師との連携、コミュニケーションの難しさ 11

⑪ 学校行事や学校の仕事が負担 11